**卒業生紹介（教員旧所属専攻修了生を含む）**

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |
| **永沢 槙子** NAGASAWA, Makiko  NHK  2012年度　修士課程修了  　修士課程では、研究、留学、課外活動と充実した学生生活を送ることができました。幅広い分野にわたる講義や国際学会を含めた学会での研究発表などを通して、専門分野とその周辺領域の知識の習得に加えて、問題を設定してその解決に取り組むプロセスの経験や自分の考えをアウトプットする訓練を積むことができたと思います。また私は | 修士1年の冬から1年間、大学の制度を利用してオーストラリアのメルボルン大学へ交換留学に行きました。修士課程で留学することで、自分の軸を持った上で海外の文化に触れることができ、学問の面でもそれ以外の面でも、多面的な視野で物事を見られるようになったと感じています。 他にも課外活動として、Robogals Tokyoという学生団体に所属していました。他の専攻・学年の学生や地域・企業の方とのつながりができ、様々な刺激が得られる機会となりました。大学院生活を楽しみ、その中で成長していきたいという方にとって、それを実現できる環境が整っていると思います。 |
| **涌波 光喜** WAKUNAMI, Kouki  独立行政法人  情報通信研究機構  2012年度　博士課程修了  私の5年間の研究生活は“楽しかった”の一言につきます。スターウォーズに出てくるような立体像表示技術を自分の手で実現したいと思い、電子ホログラフィを研究するために本専攻の山口教授の門を叩きました。入学後は先生のご指導のもと、スムーズに研究をスタートさせることができ、それからは結果を出しては国内外の学会で発表した | り学術雑誌への論文を執筆したりと忙しくも非常に充実した5年間でした。博士課程在学時には米国の大学に留学することもでき、またこれまでの研究成果が評価され、日本光学会より奨励賞を頂くことも出来ました。現在も外部の研究所で引き続き電子ホログラフィの実現に向けた研究に取り組んでいます。研究に対する熱意があれば、本専攻にはそれを強力にサポートしてくださる著名な先生方が揃っています。すずかけ台から世界へ自分の研究を発信する環境も整っています。最先端の研究に没頭したい、次世代の技術を自分の手で創り出したいという方はぜひ本専攻への入学を考えてみて下さい。 |
| C:\Users\Freeman\Desktop\ICTパンフ\JPG形式\郭　新華.jpg**郭　新華** GUO, Xinhua  Wuhan University of  Technology, China  2014年度卒　博士課程修了  　My research topic was acoustic imaging, which was quite different with my study in master period. In the beginning, it was a little tough. Prof. Nakamura gave me a lot of advice and I began to learn by myself. With the help of Prof. Nakamura and the labmates, everything was on the right track soon. I spent three years in this lab and the days were busy and meaningful. | I learnt a lot on how to do research on the lab's research seminar and got very well with my labmates, they helped me a lot. Also, I got the chance to present my research in domestic and international conferences and received my PHD degree smoothly. Besides study, we also had wonderful lab activities, such as sports, camp and lab travel, which helped us to know each other more and gave us a lot of fun.  As an international student, I feel so lucky to be able to study in Nakamura-Tabaru Lab and will lead the students here in my current career following Prof. Nakamura's spirit: caring for students, being responsible for their study and letting students grow by themselves. |
| C:\Users\tslab\Desktop\hakataya_photo.jpeg  **博多屋 涼** HAKATAYA, Ryo  株式会社野村総合研究所  2015年度卒　修士課程修了  私は学部時代から3年間、雑音が混在する音声から聴きたい音声のみを取り出す「音源分離」の研究を行いました。音声の研究を選んだのは「音楽」や「声優」が好きだからという安直な理由だったため、勉強と発見の日々でした。学生とはいえ年齢的には既に社会人ですから、自分の研究は自分の手で進めなければいけません。計画を立て、 | 実験し、考察を行い、修正する。このPDCAサイクルを繰り返す中で、先生方の温かいご指導もあり少しずつですが自らの成長を感じました。  ところで、大学院生の本分はもちろん研究です。この3年間、成果を出すため自らの研究に全力を注ぎました。しかし同時に、私は修了まで塾講師のアルバイトを続けました。また、趣味のライブ鑑賞にも月に3、4回は足を運びました。これらの活動で得た経験も私にとっては研究生活で得たものと同じくらい大切です。繰り返しますが大学院生は既に社会人としての一歩を踏み出しています。限られた時間をどのように使うのか。自らの責任でよく考え、悔いのない大学院生活を過ごしてください。 |
|  |  |
| C:\Users\Freeman\Desktop\ICTパンフ\新規記事\卒業生_パンフレット_森谷.JPG**森谷 崇史** MORIYA, Takafumi  日本電信電話株式会社 （NTT研究所）  2015年度　修士課程修了  私はスマートフォンの音声検索システムやテレビのリアルタイムにおける字幕放送をみて、「どのように機械が人の話す言葉を理解し、検索・字幕化しているのだろう？」と思ったのが研究をしたいと思うようになるきっかけでした。私が所属した篠崎研究室ではこれらの技術の主要素である音声認識において、雑音下で目標となる音声のみを | 抽出する音源分離、入力音声がどんな文字かを推測する音響モデル、単語の並びを推測する言語モデルについての研究を行っています。私自身は高精度な認識処理を実現するために音響モデルのパラメタを人手によらず自動で最適化を行うための研究をしていました。この研究に関して修士課程では５度の発表を行いましたが、なかでも国際会議に参加したことは様々な面で今後研究者として何が必要かを考えさせられ非常に良い経験となりました。他大学から来て音声工学の知識がなかった私がここまで成果を出せたのも自分の熱意に終始応えていただいた先生、共同研究者の皆様及び研究室メンバーの強力なサポートがあったからこそだと強く感じています。 |
| C:\Users\Freeman\Desktop\ICTパンフ\新規記事\山田IMG_3544.JPG**山田 健斗** YAMADA, Kento  シスコシステムズ合同会社  (Cisco Systems G.K.)  2015年度　修士課程修了  　私は大学院から東京工業大学へ進学したのですが、東工大の学びの環境と学生の意識の高さには驚かされました。在籍した通信情報工学専攻の植松・松本研究室では自分主体で研究を進めていく文化があり、研究のテーマを設定し研究活動を行うことで自分で考える力を身につけることができます。私は量子暗号を研究対象として設定したので | すが、量子力学と情報理論の両方の基礎知識が必要とされこの分野の研究はハードなものでした。しかし先生方の熱心なご指導のおかげで一定の成果を上げることができ、私の大学院での研究活動は充実したものとなりました。学内での活動以外にもインターンシップなどにも参加し、授業で学んだことを実際にアウトプットできる環境に身を置くことで自分の知識・技術のレベルを向上させることを意識し活動できました。私がこのように行動できたのも、東工大の友人達に負けられないという良質な対抗意識の賜物であると感じています。自分の好きな分野を学び、知識・技術を磨いていきたいという意欲のある方は東工大の大学院で充実した生活を送ってもらいたいと思います。 |
| **佐宗 馨** SASO, Kaoru  ソニー  2018年度　修士課程修了  私は計算機を実現する命令セットアーキテクチャへの興味から、原研究室にてInternet of Things (IoT)社会に適応できる小型で省エネルギーな計算機の研究を行いました。研究に取り組む以前はものを作るための技術に目が向きがちでしたが、どのようなものが求められているか、またそれをいかにアピールするかという観点も同じくらい重要だと日々感じ、これを研究活動の中で考えるよう意識し | てきました。3年間にわたり先生方に熱心にご指導いただき、系の構想発表会で優秀賞を頂き、2度の国際会議で成果を発表することができ貴重な経験を積むことができました。  　研究活動以外にも研究室に所属する多くの外国人学生や交換留学生との交流を通じて国際的な感覚を養い、また趣味の同人ゲーム制作では研究で得た知識を基に描画技術を高めつつ今までにないジャンルにも挑戦することで、より多くの人が楽しめるゲームを制作でき販売にまでこぎつけました。  　大学院では研究活動はもちろん自分自身の興味のあることに力を注ぐことのできる環境が整っているため、様々な経験を積み充実した生活を送ってください。 |
| **黒田 大貴**KURODA, Hiroki  立命館大学  2018年度 博士課程修了  私は、学部４年の卒業研究から修士・博士課程を通じて、山田研究室で信号処理の問題を研究していました。信号処理は観測された多様なデータから数理を駆使して価値の高い情報を抽出するための総合科学であり、データサイエンスと情報通信工学の共通基盤となっています。数学が好きな人はそれを存分に活かして工学の広い分野に貢献できる大きなやりがいのある研究分野です。私はこれまで学 | んだ知識を深化させて世界の誰もが気づいてこなかったアイディアに結実させることを目標に研究に取り組んでいました。容易でない目標に頭を悩ませてばかりでしたが、世界の第一線で活躍する研究者から直接薫陶を受けて研究に取り組める環境に大きく助けられ、国際学会・論文誌での発表など世界的なレベルで研究成果を発信することもでき、手島記念研究賞（博士論文賞）をいただくこともできました。大学での生活は研究に限らずじっくり考えることができる貴重な機会だと思いますので、ぜひ悔いのないように過ごしてほしいです。 |